

## 第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画策定検討委員会 会議録

1. 会議名 第6回第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画策定検討委員会
2. 日時 令和3年3月30日(木) 14:00~16:00
3. 場所 前原暫定集会施設 A会議室
4. 出席委員 池上委員(会長)、中野委員(副会長)、木下委員、鈴木委員、田中委員、土屋委員、檜山委員、藤野委員  
※欠席：山内委員、富永委員
5. 配布資料
  - ・資料1：第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画策定検討委員会 会議録
  - ・資料2：策定検討委員会(第5回)における意見・質問及びそれに対する事務局の見解
  - ・第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画
  - ・第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画 概要版
  - ・第4期小金井市地球温暖化対策実行計画 市役所版(案)
6. 内容
  - (1) 報告事項
    - ア. 前回議事録について
      - 会 長：前回議事録について、事務局の方から説明を願う。
      - 事 務 局：議事録は事前配布の上、修正等について連絡を頂くよう依頼し、池上会長より2点ほどご指摘いただいた。11頁の4行目が皆様にお送りしたものではありませんが、「具体策」となっていたが、正しくは「無対策」である。1度は修正したが、漢字が「無体策」となっているため、公開する前には再度「対策」に修正する。次に12頁について、1番上の事務局の2行目、「国立科学研究所で運営されている」は「国立環境研究所」ではないかということであり、こちらは確認の上、正しい方で修正させて頂く。これら以外で修正等があれば、この場で発言頂きたい。
      - 会 長：12頁について、推進計画の本編4頁の最後の箇所に、データ自体は東大と国立環境研究所と海洋開発研究機構であるようだが、図自体は環境省のポータルサイトであり、これのどれを書くかという感じだと思う。発言時は「国立環境研究所」という意味合いで言われたのではないかと思うが、事務局はいかがか。
      - 事 務 局：前回会議中の発言としては、おっしゃる通り「国立環境研究所主体で」という言い方をさせて頂いたため、そのまま残すのであれば「国立環境研究所で運営されている」となるかと思う。
      - 会 長：正しい方に直して頂ければと思う。
      - 事 務 局：了解した。では、その様に直させて頂く。

会 長：他にご意見がある方はいないか。また何かあれば申し出て頂きたい。では、現段階を持って議事録の方は承認とする。

#### イ. 前回議題の検討結果について

会 長：前回議題の検討結果について、事務局より説明を願う。

事務局より、資料2について説明

会 長：ただいまの説明について、ご意見ご質問のある方は。

土屋委員：資料2の28について、『「検討します」はあまり前向きな表現でないため、変えて頂きたい』と書かれているが、私の述べた趣旨とは異なる。全部変えてほしいということではなく、「検討します」という表現がとても多いので、他の表現でも説明可能なところは変えた方が良いのではという趣旨である。全て変えると取られかねないので、「可能な限り」などの表現を加えて頂きたい。

事務局：No. 28 の頂いたご意見については、「可能な限り」という文言を追記させて頂く。

会 長：他にご意見はないか。では以上で、前回議題の検討結果を終了とする。

#### ウ. 第4期小金井市地球温暖化対策実行計画 市役所版について

会 長：計画について、事務局から説明を願う。

事務局より第4期小金井市地球温暖化対策実行計画 市役所版について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見やご質問のある方は。まず私の方から、これは内部のみで公開されるものか。

事務局：こちらはホームページで公開する。

会 長：4頁の2番の(3)の3が非常に小さくなっている。あと、6頁の7計画の推進の1番の(2)、「実行」という箇所だけフォントが違っている。その他中身について、削減目標が記されており、CO<sub>2</sub>排出量の削減目標が5年間で7.6%となっている。この中には、元々の推進計画の本編ではCO<sub>2</sub>の原単位が変わることが大きな割合を占めていたが、こちらの数字はそういったものも入っているのか。

事務局：公共施設から排出されている温室効果ガス排出量は、毎年、環境報告書等で報告しているところであり、対象とされる7物質のうちNF<sub>3</sub>については市役所からの排出がほとんどないため含んでいない。その他のガスについては、排出対象として全て入れ込んでいる。

会 長：その時に電力の消費量がどれだけなので、CO<sub>2</sub>の排出係数をかけて換算してということをしていると思うが、元々本編の方で2030年の目標を立てる時に、CO<sub>2</sub>の排出係数が2030年はこういうのが出ている、と言うのを使って、

同じ電力消費量でも原単位が下がることでこれだけ削減できるというのを見込んでいると思う。

事務局：推進計画の方については、そういった推計の部分も含めて計算しているが、実行計画は、毎年、更新された実排出係数の方で算定している。そのため、地域推進計画と同じであるが、電気の排出係数によって毎年大きく変動してしまうところがある。

会長：そうすると、市として努力するところはエネルギー消費量を年1%削減するというところだと思うが、そこを前面に出しておいて、それを達成できるか見た方が市の取組として実行できているか評価できるのではと思う。CO<sub>2</sub>の排出量だと、周りが変わり、原単位が下がっていけば簡単に達成できてしまうかもしれない。そういった意味では、下の根拠の箇所に書いてある内容をしっかり目標として定めた方が評価しやすいのではないかと思った。他にご意見がある方は。

土屋委員：実行計画は推進計画に基づいて策定されると考えてよろしいか。推進計画ではCO<sub>2</sub>の削減目標が26%となっているが、実行計画との関連性がよく分からない。私は推進計画に基づいて実行計画が策定されると思ったが、そうではないのか。

事務局：実行計画とは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」において地方公共団体は削減目標を定め、それを公表せねばならないと定められており、それに基づいて策定している。地域推進計画も同じ法律に基づくものであり、地域を挙げて温暖化に取り組む計画を策定することに努めるという努力義務として書かれており、それに基づき策定している。市役所としても、市域にある一事業者として地域推進計画に寄与するだけの責任分の温室効果ガスを減らしていこうということで、市役所としての目標を実行計画において定めている。

土屋委員：推進計画の計画期間は10年間だが、実行計画は5年間というのはどういうことか。

事務局：計画期間というのは3年、5年、10年などでも構わないが、実行計画なのであまり期間が長すぎると中だるみなどがあるため、ある程度の期間として定めた。目標数値を定め、それに向かって削減の努力をしていくが、その期間に新しい公共施設が出来ると当然増えてしまったり、逆に施設廃止となると減ったりする。そういった公共施設の新設・廃止になるべく左右されないような期間で計画を定めるということで、今回は約4年後に新庁舎、そして新福祉会館などが増えるが、それまでは施設の増減による温室効果ガス排出量の増減がないのではないかとということで、次の計画を策定するにあたっては新庁舎、新福祉会館が出来てからどのくらい排出量が増えるのかというこ

とを数か月見た上で次の目標値を定めたいと考えたため、5年という計画期間で計画を策定した。

土屋委員：この市役所版実行計画「案」は今回初めて見たが、計画としてはこれが全てか。

事務局：その通りである。

会長：私からもう1点、毎年環境審議会での取組の評価が上がって来ているのではないかと思うが、何年か前に環境審議会の方でも言わせて頂いたが、3頁の下から8行目、「個人使用の電子機器の廃止」について、その時は確か卓上で使っている個人使用の扇風機を含むという話だったが、個人的にそういったものは大いに使った方が良くと思う。室内の温度を一律で下げて、暑い人に合わせるのではなく、適度な温度に保ちながら個人個人で快適な活動が出来るように調整するということが、これからの快適な仕事環境ではないか。卓上扇風機に限らず、例えば電気ひざ掛けなどを寒い人は使った方が良く、そういったところを個人使用として禁止するのが本当に良いのかということは疑問である。卓上扇風機も、首を振って対象が1人でなければ良いとか、そういった話だった気がする。ここはもう少し考えても良いのではないか。あと、4頁の(3)の庁舎等からのごみの箇所について、「私物ごみの持ち帰りを徹底します」とあるが、これも温暖化対策のために持ち帰るわけではなく、私物ごみを庁舎に捨てていかないというのはもっと別の問題ではないか。このごみを家で捨てたら、温暖化としては変わらない。そういう意味で、温暖化の対策かと言われるとそうじゃない気がする。これらはずっと何年も前から載っていると思うが、一度どこかで見直しても良いのではないか。

檜山委員：5頁の(3)と(4)について、(3)のグリーン購入の購入実績を小金井市環境審議会へ報告しますとされているが、報告の目的は購入目標に対する実績報告という位置付けで良いのか。そうだとすると、グリーン購入の目標値は定めていないのか。また(4)については、先ほどの会長の話にも関連するが、各課のグリーン契約の推進で再生可能エネルギー100%電力の調達を推進すると、見かけ上CO<sub>2</sub>排出量は少なくなっていくと思うが、コスト面等、クリアしていかなければならない課題も多いのではないか。

事務局：グリーン購入の実績については、特に何%以上にするといった目標数値の方は定めていない。グリーン契約の推進というところで、各電力の調達については現在も市役所内で定められており、排出係数の数値など一定の条件をクリアした事業者の中から入札をするということを行っている。ただ、今後はより取り組んでいかなければならないということで、来年度は本庁舎や西庁舎の方で100%再生可能エネルギーの電力事業者と契約するなど、幾つかの

庁舎で取組を進めていくところである。

会 長：他にご意見はないだろうか。それでは、これで本日の議題は全て終了とする。

(2) その他

会 長：事務局の方より何かあれば説明願う。

事 務 局：これまで委員の皆さんに検討を進めて頂き、策定委員会は本日で最後となる。  
この1年、計画策定に携わって頂いた委員の皆さんより、一言ずつご挨拶を  
頂きたい。本日欠席されているお二方からも、ご挨拶の方を頂いている。

富永委員、山内委員のご挨拶について、事務局より代弁

檜山委員、藤野委員、木下委員、土屋委員、鈴木委員、田中委員、中野委員、池上委員、  
の各委員よりご挨拶

事務局より挨拶

会 長：それでは、本日をもって第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画策定検  
討委員会を閉会とする。

以上